

幹旋します、貴方の相棒

いも

弊社、『パーティー&バディ』には十八歳のときに就職し、今年で二十年目になります。その名の通り、貴方にぴったりのパーティーやバディを幹旋しましょう。こちら、名刺になります。お客様の世界に電話は……ありますか！ でしたら、ええ、こちらの電話番号に。もしくは、『P&Bアプリ』と検索して頂ければ、こちらから募集を出すことも可能です。無料相談もご利用可能ですのでぜひ……スマホはない？ 失礼致しました。

いやあ、変わった世界からお越しですね。ええ、長年やっているとお客様のお召し物で、どんな世界の方かだいたい分かるものですよ。

こちらにおかけください。はは、窓口にパイプ椅子。意外と地味な事務所でしょう？ 不動産屋に似ているとよく言われます。

ではこの度は、どのようなご希望で？ まだ具体的には……さようございますか。ですよねえ、パーティーにしろバディにしろ無数の組み合わせがございますし、ほとんどの場合、長い付き合いになりますから。じっくり悩んで決めましょう。

とりあえず、ご希望が決まっていることだけ、こちらの用紙に記入してください。……なるほど、『結成目的』は『冒険』

ですか。では、『希望人数』は四人以上？ あ、パーティーでなくても構わない？ バディでも……なる、ほど。

ちなみにその『冒険』ですが、ラスボスは判明していますか？ ……不明。いえいえ、ほとんどの方がそうですよ。稀にシリーズものの世界からお越しの方が、「ラスボスは前作の主人公だと思う」とか「自分がラスボスになりそうだから信頼できる相棒がパーティーに一人欲しい」とか、そういった希望をされるんです。

ええ、最近じゃシリーズものの世界でも、あらかじめ当サービスをご利用される方が多いんです。昔は冒険の途中で出会う運命に任せるのが、当たり前だったんですけどね……今はストーリーも複雑ですし、推し活ブームですから。パーティーでもバディでも、推しとして人気が出そうな人材が人気ですね。お客様もそのようなご希望がありましたら……なかなか、イメージが湧かない？ でしたら、いくつか例をご紹介します。少々お待ちください。

こちらの赤いファイルにあるのが成功例、青いファイルが失敗例ですね。当サービスに会員登録していただいた方のプロフィールシートと、ストーリー終了後に提出していただくストーリー報告書のコピーが綴じてあります。はい、フィードバックはこのようにまとめて、サービスの向上に繋がっています。良いストーリーにしましょう！

まずは先ほどのお話の例として、推し重視の成功例を。

二年前の例です。募集者はRPGの金字塔、しかもシリーズものの勇者です。希望人数は彼を入れて四人。王道中の王道ですから、三つしかない椅子に応募者が殺到しまして。良い人材が見つかる条件が揃っていましたから、選び甲斐がありました。その中から募集者の方とこちらの職員で選考しました結果が、こちらの三人ですね。一部、本人のご希望で名前や顔が伏せられていますがご覧ください。

一人目は戦士、イザクさん。彼の長所はなんといつても勇敢さですね。顔写真を見ての通り、歴戦の戦士って感じでしょう？ 年齢は設定されていませんが三十、四十代かと。立派な髭に、片目の傷。毛皮みたいな服も着ちゃったりして、二年前の当時からしてもややテンプレ戦士すぎますが、応募者の勇者レオさんはお若い方でしたので、キヤリアの長い右腕がびつたりではないかというところで。ええ。戦士検定二級も持つてらっしゃいます。え？ 金字塔のシリーズもののなにに一級じゃなくていいのかと？ これが意外と、むしろいいんです！

勇者を上回る強さだと目立ちすぎてしまうという理由もあります。もう一つ理由が。イザクさんは最初、勇者のライバル的な立ち位置で登場するんですね。旅の序盤は勇者と馬が合わなくて、喧嘩することもしばしば。ところがいくつかのイベントを経て、勇者と相棒になつていく……というシナリオですので、彼は旅の途中で強くなつていくんです。有り体に言うとなレバアップして戦士検定一級になります。

というわけで、実は金字塔のパーティーは一級じゃなくてもいいんです。むしろ成長譚をシナリオに入れるために、二級ぐらいにしておくのがちょうどいいんです。

二人目は魔法使いのヴィオラさん。ええ、見ての通りヒロインですね。彼女もまた、魔法使いとしてのスキルはそう高くありません。魔法使い検定三級。

しかし、彼女の本領発揮は魔法じゃないんですね。プロファイルをご覧ください。そう、正体は一国の王女様！ ラスボスである魔王によつて滅茶苦茶にされた自国を救うため、旅をしていたところに勇者一行と出会う、と。ええもちろん、世界が平和になった後は勇者と結ばれます。トゥルーエンドではね。

ヴィオラさんは主に男性からの推し人気が高く、二年前のコミケは彼女がいっぱいでした。王女ゆえの高飛車さと、世間知らずな純粹さのギャップが可愛いんですね。ツンデレ……という月並みですね。もつと天然というか健気というか、柔らかな感じの雰囲気ながらも、あざとくないところが女性ファンからの人気も獲得した要素かな。

そして最後に三人目、盗賊のキシルさん。この人がMV P！ 当時は……まだ十七歳だったかな。盗賊らしからぬ、線の細い美少年ですよ。資格は何も持っていない。しかし、若くして盗賊団のリーダーを務める確かな手腕と人を見る目で、魔王の居場所を探り当てました。資格をお持ちでなくても、重宝される場合もあるんです。

彼はお世辞にもコミュニケーション能力が高いとはいえませんが、気遣いのできる方でしたから、このパーティーにおける潤滑油のような存在ですね。彼自身、もとは身分の高い生まれで、幼い頃にやむを得ず盗賊に身を落とした方なので、人の苦勞が分かるのでしょう。

面白いことに、我々の世界で刊行されるゲーム雑誌で行われたこのストーリーの人気アンケートでは、キシルさんが一位でした。ネットじゃ彼が「今作のヒロイン」って呼ばれているんですから、これ以上はないだろうというヒロイン枠としてヴィオラさんを斡旋した我々としてはビックリです。

キシルさんへの票の八十パーセントは女性ファンからの票でした。どうも、男性よりも女性のほうが雑誌や公式サイトなんかのアンケートに回答してくれる傾向にあるようで。推し活にお金を使うのも、女性が多いかなあ。

キャラクターとして魅力的な、推しとして人気の出そうな人材を採用するなら、その辺りの戦略を色々考えましようもつとも、こちらはまだデータ不足で、この人は絶対にウケる！と自信たっぷりには言えませんが……。

次に失敗例ですね。募集者は元・新米警官、ハルモトさん。はい、元、なんです。陰謀が絡んだ事件の真相に近づいてしまい、上司に辞職させられました。そこで、この事件を追うためのバディを募集したいとのご相談でした。

そちらの世界に映画はありますか？ ないですか。いえいえ、こちらとしましては、ご存知ないほうが説明しがいがある

ります！ 結末が分かつてらっしゃるのに説明するのもね……。

ハルモトさんの場合、もう警察などの同業者は頼れませんが、陰謀に迫っていくカギとしては社会の裏を知る人がバディとして望ましい。また、成功すれば続編が作られる予定の新作映画とのことで、男二人の凸凹バディという王道でいきたいというハルモトさんの希望がありました。

そこで選考の末、我々が斡旋しましたのがこちら、ジャン！ 詐欺師のエリックさん。偽名です。国籍不明。

お持ちの資格が漢検一級、日本語検定一級、英検二級……海外出身かも疑わしいですね。あと調理師免許もお持ちで。コック、執事、ホスト、SPなどキャリアも豊富ですので、ハルモトさんとのような捜査をすることになつても能力を発揮してくださります。

また、凸凹バディつづりも素晴らしい。まず年齢差は十歳。ハルモトさんは学生時代からとにかく真面目で嘘や不正が大嫌い。対しエリックさんはかなり特殊な生い立ちのため学校に通ったことがないそうで、規則や常識に縛られるのが大嫌い。二人の性格は真逆ですが、たった一つ、物事の真実を知るまで気が済まないというところだけは一致しているんです。

極めつけにエリックさんの本名は、スノウなんです。ちよつと笑わないでください、意外とこういう願掛けって大事なんですから！

まあでも……今回は願掛けに頼りすぎましたかね……。
結果、大ゴケで続編の企画もぼしやりましたから。

凸凹バディって不思議ですよ、最初は仲悪くてもだんだん仲良くなるのが定番じゃないですか。でも普通、性格の合わない人と友達になるのは難しいものです。……そうなんです、このお二人は仲良くなれなかつたんです。どこまでいってもビジネスパートナー、スタッフロールが流れるまでビジネスパートナー。

理由を伺いましたところ、「共同生活が無理だつた」と。はい。ストーリーの中では、お二人はずつと捜査のためにキーパーソンの別荘に数日間、泊まりこみだつたんですね。だいたいこの共同生活でじわじわ仲良くなるものなんですけど、お二人の場合、なんかもう食生活とかテレビのリモコンを置く場所とか、こまごました生活ルールのレベルで合わなかつたそうです。

幸い、映画では概ねカットされたんですけど、ストーリー中にお互いプツツてなつちやつて、口論になつたそうです。

別荘での捜査中、ハルモトさんがパソコンを使つてたらしいんです。そこにエリックさんが差し入れのパンを買つてきたんです。それをハルモトさんが、キーボード弄つてた手でそのまま食べ始めたから、「いやそこは真面目じゃないんかよ」ってツツコンだら向こうがなんか怒つちやつて。

エリックさんとしては、パソコン触つた手でものを食べるってあり得ないんです。ほら、キーボードが便器より汚いつて

いう雑学というか都市伝説というか、あるじゃないですか。普段はハルモトさんのほうがきつちりしていてガミガミ言つてくるのに、そこはガサツなのかよ！ って内心イラッとしたそうで。エリックさんなりに我慢して軽くツツコンなのに、「それは嫌味か」って怒つてきたから、「ああもうこの人とは無理だわ」と思った……とのこと。

いやいや、そんな理由で成立しなくなつちゃうものですよ、バディつて。パーティーと違つて、その相手一人と合わなかつたらおしまいですからね。このお二人は、『パソコンからのパン事件』以前にお互いに対する不満が溜まつていたこともありますけれど。

凸凹バディは、凸凹具合に気をつけないといけない、と学ばせていただきました。反省です。

さて、次の例はですね……。

いかがでしたか？ 何件かの事例をご覧いただきましたが、お客様の募集条件は固まつてきましたか？

おつ、『希望人数』は一人！ バディになさいますか。え？ パーティーですか。あとの二人は旅の途中、こちらで決めた一人と一緒に決めると。なるほど、それも楽しそうですね。

では、募集する一人はどのような方に？

……えつ、私ですか？

ちよつ……と、上の者に相談してきますね。